

道徳科学習指導案

指導者

1 日 時 令和6年12月 4日（水） 5校時

2 学 年 第2学年（10名）

3 主題名 「がんばったあとのよろこび」 [A 希望と勇気、努力と強い意志]

4 ねらい

なかなか覚えることができない七の段に一生懸命に取り組み、覚えられたときの「ぼく」の気持ちを考えることを通して、つらくても、しんどくても、頑張った先には、やってよかったという喜びがあることに気づき、難しくても自分のやるべき勉強や仕事をしっかり行おうとする心情を育てる。

5 教材名 「なんどでも」
（「小学どうとく 生きる力2」日本文教出版）

6 主題設定の理由

○主題観

本主題は、第1学年及び第2学年の内容項目[A 希望と勇気、努力と強い意志]、「自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。」に基づくものである。これは、第3学年及び第4学年では、「自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと。」、第5学年及び第6学年では、「より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。」に繋がっていく。

児童が一人の人間として自立し、よりよく生きていくためには、常に自分自身を高めていこうとする意欲をもつことが大切である。そのためには、自分の目標をもってその達成に向けて粘り強く努力するとともに、やるべきことはしっかりとやり抜く忍耐力を養うことが求められる。低学年においては、何事も好奇心をもって行おうとし、自分がやらなければならない勉強や仕事に、比較的素直に向き合い取り組もうとする時期にある。また、興味・関心のあることについては、意欲的に取り組むものの、好き嫌いで物事を判断し、困難なつらいことや苦しいことがあるとくじけてしまう傾向も見られる。しかし、やるべきことをしっかりと行うことは、自分自身を高めていく上で大切である。そこで、やり遂げたときの喜びや充実感に目を向け、自分がやるべき勉強や仕事をしっかりと行うことのよさについて考えを深められるようにと考え、本主題を設定した。

○児童観

○指導観

本教材は、「かけ算九九の七の段を覚える」という目標に向かって「ぼく」が努力を続ける様子が描かれており、最後までやり切ったときの喜びについて考えることのできる教材である。主人公の「ぼく」は、はりきってかけ算九九の練習をはじめますが、七の段がなか

なか覚えられない。おねえさんとおかあさんからアドバイスもらった「ぼく」は、一週間何度も練習を続け、とうとう七の段を覚えることができる。なかなか覚えることができない七の段に一生懸命に取り組む「ぼく」の気持ちを考えることを通して、つらくても、しんどくても、頑張った先には、やってよかったという喜びがあることに気づくことのできる教材である。

指導に当たっては、児童が主体的に考え、友達と意見交換することを通して、道徳的価値についての考えを深められるようにしていく。そのため、次の4点に留意する。

- ① 導入では、事前アンケートの結果を示し、自分のやるべき勉強や仕事について「もう無理だ。」「もうやりたくない。」と思った経験を共有することで、このような気持ちに共感し、課題を自分事として捉えることができるようにする。
- ② 展開前段では、何度やっても覚えられないときの「ぼく」の気持ちを考え、共感することで、うまくいかない諦めてしまったり、楽な方に逃げてしまったりする弱さについて、自分事として考えることができるようにする。
- ③ 中心発問では、「ぼく」の一週間の様子の動作化をして場面を整理してから「思わずジャンプしたとき」の気持ちを問うことで、頑張った先には、やってよかったという喜びや充実感があることに気づくようにする。また、教材のように一生懸命努力してできるようになった「ぼく」と諦めてしまったときの「ぼく」との気持ちを比較しながら考えることで、やってよかったという喜びの中には、様々な喜びがあることに気づくようにする。
- ④ 展開後段では、導入時の課題「最後まで諦めずに頑張りと、どんないいことがあるだろう。」を再度提示して考えることで、本時の学習で深まった考えを価値づけすることができるようにする。

7 準備物 ・挿絵

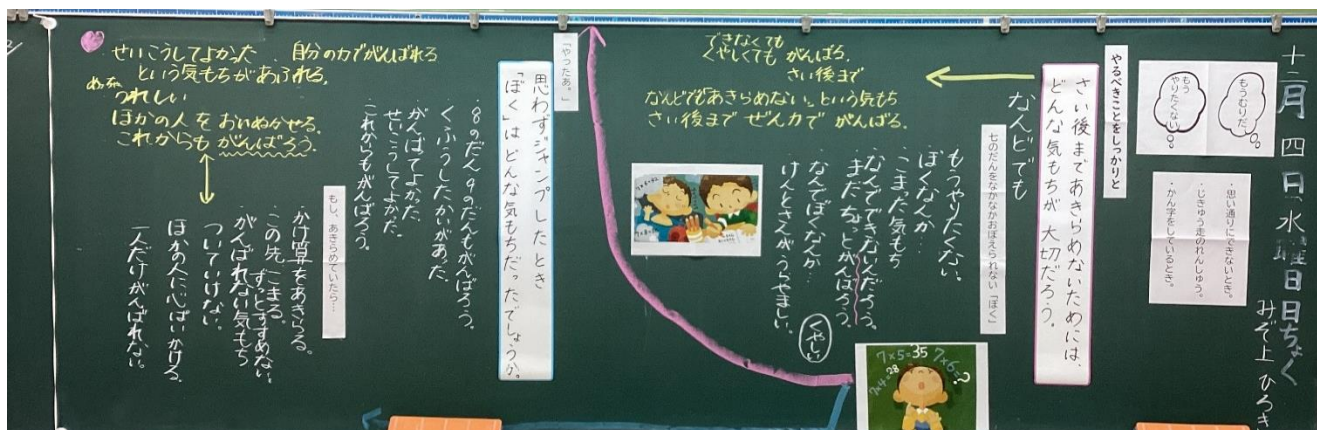
8 学習指導過程

	学習活動	○主な発問 ・児童の心の動き	○留意点●評価
導入 (3分)	1 課題意識をもつ。	○みなさんは、「もう無理だ。」「もうやりたくない。」と思うことはありますか。それは、どんなときですか。 ・鉄棒の練習をするとき ・漢字の練習 ・サッカー	○事前アンケートの結果を示し、「もう無理だ。」「もうやりたくない。」と思った経験から本時の課題へつなげる。
		最後まで諦めずに頑張りと、どんないいことがあるだろう。	

展開前段 (27分)	2 「なんどでも」を読んで考え、話し合う。	○七の段をなかなか覚えられないとき、「ぼく」はどんな気持ちだったでしょうか。 ・もう無理。 ・やめたいな。 ・できなくて悔しい。 【中心発問】 ○「ぼく」はどんな気持ちで思わずジャンプしたのでしょうか。 ・やっと覚えられた。 ・途中で諦めなくてよかった。 ・できるようになって嬉しい。 【考えを深める発問】 ○もし、途中で諦めていたら、今、どんな気持ちになっていたでしょう。 ・やっておけばよかったな。 ・やっぱりぼくはだめなんだ。	○何度やっても覚えられないときの「ぼく」の気持ちを考えることで、うまくいかないと諦めてしまったり、楽な方に逃げてしまったりする弱さに共感することができるようになる。 ○動作化をすることで、一週間一生懸命努力した結果の気持ちであることを捉えることができるようになる。 ○一生懸命努力してできるようになった「ぼく」と諦めてしまったときの「ぼく」との気持ちを比較しながら考えることで、やってよかったという喜びの中には、様々な喜びがあることに気づくようになる
展開後段 (10分)	3 自分の生活を振り返る。	○最後まで諦めずに頑張りと、どんないいことがあるでしょうか。 ・褒めてもらえる。 ・できることが増える。 ・成長できる。 ・もっと頑張ろうという気持ちになる。	●つらくても頑張りがれたときの喜びや充実感に気付いている。 (道徳ノート・発言) 【キーワード】 ・自分が成長できる。 ・できることが増える。

終末 (5分)	4 学習の振り返りをする。	○今日の学習の振り返りを書きましょう。	○これまで自分が頑張ってきたことを振り返ることで、頑張った先の喜びを想起することができ、自分がやるべき勉強や仕事をしっかり行う意欲へとつなげる。
------------	---------------	---------------------	--

9 板書



10 成果と課題 (成果…○ 課題…●)

- アンケートを用いて「もう無理だ。」「もうやりたくない。」と思った経験を共有し、その気持ちについて共感することで、本時の課題を自分事として考えることができた。
- 「例えば～」と、自分の生活と結び付けながら発言する児童が多く見られ、生活を振り返りながら、頑張った先の気持ちや「最後まで諦めないためには」という課題について考えることができた。
- 中心発問では、「ぼく」の一週間の様子の動作化をして場面を整理してから「思わずジャンプしたとき」の気持ちについて問いかけたことで、「ぼく」の気持ちに寄り添いながら感じた素直な言葉から、考えを深めることができた。
- 子どもたちが考えを活発に発言するため、一つ一つの発問に時間をかけすぎてしまった。その発問で出させたい言葉を明確にしておき、後半の時間を十分に確保できるようにしていく必要がある。
- 一生懸命努力してできるようになった「ぼく」と、諦めてしまったときの「ぼく」との気持ちについて比較し、児童が矢印で表現することができたが、どうしてその矢印になるのかが分かりにくい板書になってしまった。どうしてそうなるのか理由を問いかける必要があった。

11 今後に向けて

- ・道徳的な価値が高まりそうな発言や出させたい言葉を事前に考えておき、そこに焦点を当てて対話をしていくことで、展開後段にかける時間を確保したり、考えを深めながらねらいに迫れたりすることができるようにする。
- ・めあてを設定した際に、その課題における現時点での考えを出し合い板書しておくことで、展開後段において深まった価値について児童自身が学習を振り返りながら自分の生活について考えることができるような授業展開にしていく。